

編集委員会

編集委員会では昨年一年間本誌に掲載された全寄稿作品のうち、本誌の性格に最もふさわしいと思われる四作品を「エディター賞」として選出させて頂きました。

受賞作品・受賞者を、左記に発表させていただきます。  
(受賞者五十音順)

\*ガリレオ・ガリレイ「科学者」の誕生？

伊藤 和行氏（京都大学大学院

文学研究科教授）

九月号掲載

会員の皆様にとつて興味深い作品ではなかったでしょうか。

近代科学の基本的な方法を確立し、科学革命の時代を作ってきたガリレオ。

ガリレオを歴史の舞台に引き上げた。望遠鏡による天体観測”。ガリレオと望遠鏡との関係性がたいへん面白く描かれています。ガリレオの望遠鏡に周りの望遠鏡技術がついてこれず、自ら多くの成果を発表したこと、自らの発表後には望遠鏡の抜きんできた性能が自信に不利益を生じてしまうなど、その当時の

様子が伝わってきます。

そうした「科学者」という概念がなかった時代に生きたガリレオに対して、彼の業績を振り返って「科学者」と位置付ける著者の視点がとてもおもしろい作品です。

ガリレオについての続編を期待しています。

\*「不便でよかったことはありませんか」

川上 浩司氏（京都大学デザイン学

ユニット 特定教授）

二月号掲載

便利が良いとされている時代に、「不便でよかったことはありませんか？」という問いの題名に「なに？」と興味を惹かれ、読みはじめると面白くて一気に読まれたのではないのでしょうか。

著者は不便の効用を不利益と呼び、このことをシステムデザインに活かして試し続けています。物事を別の視点から見ること新たな発見があることを具体的なデザインで紹介してくださいました。

読み進んでいくと、今の暮らしの常識や思い込みに捉われていることに気づかされます。

便利であることにより人間が失うものや悪影響があること、不便により好影響や楽しいと感じることができると、考え方やものの見方に変化がおこります。

よくないとされた「不便」を見直すことの

できた面白い作品でした。

\*「私の修行」

ネルケ無方氏（兵庫県新温泉町

安泰寺 住職）

五月号掲載

「座禅メディテーションに、トライしてみないか」という一言の誘いから、ドイツに暮らす青年が禅に触れて遠い異国の日本に導かれ、住職になるまでが描かれています。

出会い、修行、ホームレス雲水、住職の今日にいたるまで、滅多にない境遇で皆が経験したことのない体験が描かれていて、誰もが興味をもって読んでしまいます。

住職になった今も自給自足をし、弟子たちとの修行の日々はとても大変そうにも思えますが、「一本のキユウリ」として弟子たちと育みたいという姿には迷いがなく、羨ましくもあります。

ドイツの人とは思えないほどの文才は称賛されるに値するのではないのでしょうか。